

歌集
地
中

阿部静枝

短歌研究社

昭和四十三年五月十日 印刷
昭和四十三年五月十五日 発行 ©

歌集 地 中 定価 一〇〇〇円

著者 阿部 静枝

東京都豊島区池袋二丁目九〇八番地

発行者 小野 昌 繁

発行所 短歌研究社

東京都千代田区二番町八番地
電話(二六二)八六七八番
振替(東京)二四三七五番

印刷者 神谷秀雄
製本者 山田五郎

落丁本、乱丁本はお取替いたします。

目次

旅

昭和三七年—三八年

行き.....	七
西ドイツ.....	一四
パリ.....	三三
イギリス.....	三六
スイス.....	三九
コペンハーゲン.....	四四
ローマ.....	四六
帰り.....	五五

帰り着きて……………六二

遺れるもの……………六三

春彼岸

黒部……………七三

日

昭和三九年—四〇年

西行き……………七四

菖蒲……………七六

灯

広島……………一〇三

街……………一〇五

信濃……………一〇六

觀覽席

落葉……………一三七

朝夕

時……………昭和四一年

根……………一三六

東京灣……………一三七

夕暮……………一三九

蛇……………一四四

魚……………一五五

草	二〇四
高尾山	二二
台風	二七
みちのく	三五
西多賀療養所	三六
寒	
野	三五
春	二六一
花	二六六
上総柏井	二七
照りかげり	二八
あとがき	三〇三

昭和四二年

地 中

旅

昭和三七年―三八年

西ベルリン市長の招待によりベルリン問題協議会員として西ベルリンに滞在、その後は観光。

行き

旅の間にこの手の荒れも癒ゆらむかしまひ置
きたる指輪をはめぬ

混まぬ道を知りゐる友がなめらかに車走らせ
われを送りぬ

昨夜までわれの講義に出し人たち見送りに来
てすみれをくれぬ

離陸せる機窓にしばらく見下せり運河の月の
影がつき来る

うつむけば胸に着けたるすみれ匂ふ静けき幸
を持ちて旅立つ

夜の機に眠りはしばし朝雲の隙に光れる氷河
を見下す

雲の間に見下す氷河朝影に光れる面とかげれ
るとあり

地上温度零下六度と聞きて降り空港傍の氷^ひを
踏み遊ぶ

葉を落し尽せる樺とから松が林をなせる辺ま
で藪つづき

骨のやう瘦せたる白樺立ちまじるアラスカよ
親し北育ちわれに

枯桑の枝さきとがり寒に入る頃のふるさとに
似たりアラスカ

剥製のアラスカ熊がホールに在り外の吹雪に
まぎれむ毛並み

森中の伐採小屋より青き煙立てるはやさし寒^{かん}
荒ぶなか

森林の中に縞なす白樺の倒れ木は斜に白線交
す

アラスカの山々に日差し蔽ふ雪の線なだらな
り上空を行く

白熊ら一族もこもり棲みゐるか雪山脈の柔ら
げる線

雪煙にまがふ雲抜き峯の見ゆ雪稜^{せりよう}張れるマッ
キンレー山脈

陽の光来るは束の間過ぎし宙はあかね濃く引
き行く方は紺

欠けし月の赤き見るのみ闇深し機は西側へ極
を越えつつ

西ドイツ

雪の降り募らぬ間にと街に出づ湖際のわが宿
たしかめて